



TITLE:

伊藤公雄教授 略歴・著作目録

AUTHOR(S):

CITATION:

伊藤公雄教授 略歴・著作目録. 京都社会学年報 : KJS 2016, 24: (1)-(9)

ISSUE DATE:

2016-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/219488>

RIGHT:

本誌に掲載された原稿の著作権は、社会学研究室に帰属するものとする。

伊藤 公雄 教授
略歴 著作目録

伊藤 公雄 教授

略歴

1951年10月	埼玉県にて出生
1976年3月	京都大学文学部卒業
1978年3月	京都大学大学院文学研究科修士課程修了
1981年3月	京都大学大学院文学研究科博士後期課程中途退学
1981年4月	ミラノ大学へ留学
1983年1月	京都大学文学部助手
1984年4月	神戸市外国語大学講師
1985年4月	同 助教授
1988年4月	大阪大学人間科学部助教授
1996年4月	同 教授
2000年4月	大阪大学大学院人間科学研究科教授
2005年4月	京都大学大学院文学研究科教授

〈おもな学会活動〉

日本スポーツ社会学会理事・会長、関西社会学会理事・会長、
日本ジェンダー学会理事・会長、日本社会学会理事・学会誌編集委員会委員長・
国際交流委員長

〈おもな社会活動〉

内閣府男女共同参画会議専門調査会委員、（官房長官の諮問委員会である）男女
共同参画の将来像検討会座長代理、内閣府男性意識調査検討会座長、同・地方自
治体における男性相談マニュアル検討会座長、大阪府・京都府・滋賀県男女共同
参画審議会会長、独立行政法人国立女性教育会館監事、国連人口基金東京事務所ア
ドバイザリーコミッティ

伊藤 公雄 教授

著 作 目 録

著書（単著書）

1. 『光の帝国・迷宮の革命——鏡の中のイタリア』 青弓社、1993
2. 『＜男らしさ＞のゆくえ——男性文化の文化社会学』 新曜社、1993
3. 『男性学入門』 作品社、1996
4. 『「できない男」から「できる男」へ——女性と男性のための男性学入門』 小学館、2002
5. 『「男らしさ」という神話』 NHK 出版、2003
6. 『「男女共同参画」が問いかけるもの』 インパクト出版会、2003
7. 『ジェンダーの社会学』 放送大学教育振興会、2008
8. 『増補新版 「男女共同参画」が問いかけるもの——現代日本のジェンダー・ポリティクス』 インパクト出版会、2008

編著書

1. 『憲法と世論』 社会評論社、1995
2. 『マンガのなかの＜他者＞』 臨川書店、2008
3. 『コミュニケーション社会学入門』 世界思想社、2010

共著書

1. 伊藤公雄・木下誠 『こうすればできる 死刑廃止——フランスの教訓』 インパクト出版会、1997
2. 伊藤公雄・國信潤子・樹村みのり 『女性学・男性学——ジェンダー論入門』 有斐閣、2002
3. 伊藤公雄・國信潤子・樹村みのり 『女性学・男性学——ジェンダー論入門 改定版』 有斐閣、2013
4. 多賀太・伊藤公雄・安藤哲也 『男性の非暴力宣言』 岩波書店、2015

共編著

1. 住沢博紀、長尾伸一、長岡延孝、坪郷實、小野塚佳光、須田文明、野田昌吾、阪野智一、伊藤公雄 『EC 経済統合とヨーロッパ政治の変容』（「イタリア左翼民主党とヨーロッパ左翼の展望」執筆担当）、河合文化教育研究所、1992
2. 伊藤公雄・富士谷あつ子編 『女がかわる男がかわる 100 冊の本』 かもがわ出版、1997
3. 伊藤公雄・牟田和恵編 『ジェンダーで学ぶ社会学』 世界思想社、1998
4. 伊藤公雄・橋本満編 『はじめて出会う社会学』（橋本満との共編）、有斐閣、1998
伊藤公雄・富士谷あつ子編 『ジェンダー学を学ぶ人のために』 世界思想社、2000

5. Ito, Kimio (編集委員), *International Encyclopedia of Men and Masculinities*, Routledge, 2007
6. 伊藤公雄・富士谷あつ子編『日本・ドイツ・イタリア 超少子高齢社会からの脱却』明石書店、2009
7. 伊藤公雄 (編集長)『社会学事典』日本社会学会社会学事典刊行委員会編、丸善、2010
8. 伊藤公雄・井上俊編『社会学ベーシックス』全10巻別巻1、世界思想社、2008～2011
9. 伊藤公雄・春木育美・金香男編『現代韓国の家族政策』行路社、2010
10. 天野正子・伊藤公雄他編『新編日本のフェミニズム』全12巻、岩波書店、2008～2011
11. 伊藤公雄・国信順子・樹村みのり編『改訂新版 女性学・男性学——ジェンダー論入門』有斐閣、2011
12. 戦友会研究会編 2012『戦友会研究ノート』青弓社、2012
13. 伊藤公雄・富士谷あつ子編『フランスに学ぶ男女共同の子育て少子化抑制政策』明石書店 (担当「家族政策とジェンダー」pp.156-174、および「おわりに」)、2014
14. 伊藤公雄・山中浩司編『とまどう男たち 生き方編』大阪大学出版会、2016

著書 (共著書)

1. 高橋三郎編『共同研究 戦友会』(「戦中派世代と戦友会」担当) 田畑書店、1983
2. 作田啓一・富永茂樹編『自尊と懷疑—文芸社会学をめざして』(「<男らしさ>の挫折」担当)、筑摩書房、1984
3. 京都大学新聞社編『口笛と軍靴』(「『開かれた』イデオロギー装置—メディアとしての少年軍事愛国小説」担当)、社会評論社、1985
4. 宝月誠編『薬害の社会学』(「日本人とクスリ」担当) 世界思想社、1986
5. 作田啓一・井上俊編『命題コレクション社会学』(「マルクス 抽象的個人の誕生」および「パレート エリート周流」担当)、筑摩書房、1987、
6. 伊藤誠・片桐薫・黒沢惟昭他編『グラムシと現代』(「グラムシ文化支配論と現代」担当)、御茶ノ水書房、1988
7. いいだもも・片桐薫他編『生きているグラムシ』(『支配』の文化・歴史社会学に向けて—C. ギンツブルグからA. グラムシへ) 担当)、社会評論社、1989
8. 仲村祥一編『現代的自己の社会学』(「情報ファシズムのアイロニー—モロ事件とマス・メディア—」担当)、1991年、世界思想社、1991
9. 中久郎・梶谷素久編『現代社会学グローバル』(「イタリア社会学の再生」担当)、御茶ノ水書房、1991
10. 栗原彬・吉見俊哉・杉山光信編『記録 天皇の死』(「空っぽからの出発」担当)、筑摩書房、1992
11. 中島義明・友田泰正編『人間科学への招待』(「変わる『男らしさ』『女らしさ』」担当)、有斐閣、1992

12. 戦時下日本社会研究会編『戦時下の日本——昭和前期の歴史社会学』（「戦時下日本における戦争映画の考察——田坂具隆監督作品『五人の斥候兵』をめぐって」担当）、行路社、1992
13. 片桐薫、黒沢惟昭編『グラムシの思想空間』（「リソルジメント・大衆文学・ファシズム—民族的・大衆的（ナツィォナーレ・ポポラーレ）概念をめぐって」担当）、社会評論社、1992
14. 井上俊・大村英昭編『改定版社会学入門』（「システムと生活世界」担当）、放送大学教育振興会、1993
15. 片桐薫、黒沢惟昭編『グラムシと現代世界』（「グラムシと文化支配の現在」担当）、社会評論社、1993
16. 井上真理子・大村英昭編『ファミリーズの再発見』（「父親のゆくえ」担当）、世界思想社、1995
17. 井上俊・上野千鶴子・見田宗介・吉見俊哉編『岩波講座 現代社会学 22 メディアと情報化の社会学』（「メディアと社会学」担当）、岩波書店、1996
18. 井上俊・上野千鶴子・見田宗介・吉見俊哉編『岩波講座 現代社会学 16 権力と支配の社会学』（「権力俊哉対抗権力——ヘゲモニー論の射程」担当）、岩波書店、1996
19. 井上俊・上野千鶴子・見田宗介・吉見俊哉編『岩波講座 現代社会学 23 日本文化の社会学』（「『和の精神』の発明——聖徳太子像の変貌」担当）、岩波書店、1996
20. 小岸昭・池田浩士・鶴飼哲・和田忠彦編『ファシズムの想像力』（「夫、父、兵士でない男は男ではない—イタリア・ファシズムと＜男らしさ＞」担当）、人文書院、1997
21. 渡辺和子編『キャンパス・セクシャルハラスメント』（「男性学・男性研究の視点から見たセクシャルハラスメント」担当）、啓文社、1997
22. 国立婦人教育会館編『女性学教育/学習ハンドブック』（「性別役割分業の見直し」担当）、有斐閣、1997
23. 中島義明、太田裕彦編『人間科学フロンティア』日本放送出版協会、（「ジェンダーと人間」担当）、日本放送出版協会、1998
24. S.Vlastos (ed.) *Mirror of Modernity. (The Invention of Wa and the Transformation of the image of Prince Shotoku in Modern Japan* 担当), University of California Press, 1998
25. 情況編集部『ナショナリズムを読む』（「グラムシと近代国民国家」担当）、情況出版、1998
26. 日本スポーツ社会学会編『変容する現代社会とスポーツ』（「＜男らしさ＞と近代スポーツ」及び「近代国民国家とスポーツ」概説担当）、世界思想社、1998
27. 高橋三郎編『水子供養』（「『説得』のレトリック/『納得』の論理——水子供養の場合」担当）、行路社、1999
28. 井上俊・亀山佳明編『スポーツ文化を学ぶ人のために』（「ジェンダーとスポーツ」担当）、世界思想社、1999
29. 杉本厚夫編『体育教育を学ぶ人のために』（「スポーツ教育におけるジェンダー」

- 担当)、世界思想社、2001
30. 樺山紘一他編『20世紀の定義 4 越境と難民の世紀』(「オリンピックの政治性——スポーツは『境界』を越えることができるか」担当)、岩波書店、2001
 31. 亀山佳明・清水学・富永茂樹編『文化社会学への招待——<芸術>から<社会学>へ』(「性別化されたディスコースを越えて—ヴァージニア・ウルフ『灯台へ』をてがかりに」担当)、世界思想社、2002
 32. 野宮大志郎編『社会運動と文化』(「現代アメリカ合衆国における男性運動」担当)、ミネルヴァ書房、2002
 33. 比較家族史学会編『父—家族概念の再検討に向けて』(「男性の次世代育成力をめぐって」担当)、早稲田大学出版部、2003
 34. 清水博子『夫は定年妻はストレス』(「高齢社会と男性問題」担当)、青木書店
 35. 中久郎編『戦後社会のなかの戦争』(「戦後男の子文化のなかの『戦争』」担当)、世界思想社、2004
 36. 原ひろ子他編『ジェンダー問題と学術研究』(「学術の再点検—男性学・男性性研究の視点から」担当)、ドメス出版、2004
 37. Maclelland, M. and R. Dasgupta (eds.) *Genders, Transgenders and Sexualities in Japan* ("An introduction to men's studies" 担当), Routledge, 2005
 38. 盛山和夫他編『「社会」への知／現代社会学の理論と方法 (下)』(「解釈と実践——カルチュラル・スタディーズの射程」担当)、勁草書房、2005
 39. 駒込武、竹本修三編『「偏見・差別・人権」を問い直す』(「ジェンダーから点検する社会」担当)、京都大学学術出版会、2007
 40. 北九州市男女共同参画センター“ムーブ”編『ジェンダー白書 女性と健康』(「『男』の病——男性性と健康」担当)、明石書店、2008
 41. 京都大学女性研究者支援センター編『京都大学 男女共同参画への挑戦』(「京都大学における男女共同参画のあゆみ」担当)、明石書店、2008
 42. 辻村みよ子・大沢真理編『ジェンダー社会科学の可能性 3 壁を超える』(「男性学・男性性研究からみた戦後日本社会とジェンダー」担当)、岩波書店、2011
 43. Fujita-Fanselow, F. (ed.), ("The Formation and Growth of Men's Movement" 担当), The Feminist Press at the City University of New York.
 44. 岩波書店編集部編『これからどうする—未来社会の作り方』(「男性主導社会からの脱出へ」担当)、岩波書店、2013
 45. 日本スポーツ社会学会編『21世紀のスポーツ社会学』(「イタリア・ファシズムにおける身体文化」担当)、創文企画、2013
 46. Sung, S. and G. Pascall (eds.) *Gender and Welfare States in Eastern Asia Confucianism or Gender Equality* ("Emerging Culture Wars: Backlash Against 'Gender Freedom' 担当), Macmillan, 2014
 47. 岩波講座『日本歴史 第19巻・近現代5』(「メディア社会・消費社会とポピュラーカルチャー—戦争と暴力のイメージを中心に」担当)、岩波書店、2015
 48. A. ポルテッリ (朴沙羅訳)『オーラル・ヒストリーとは何か』(「ポルテッリの『オーラル・ヒストリー』研究と戦後イタリア」担当)、水声社、2016

学術論文（単著）

1. 「戦友会的結合の諸相——『体験縁』と『所属縁』をめぐって——」、1980（昭和55）年1月『ソシオロジ』第24巻2号
2. 「アントニオ・グラムシの知識人論をめぐって——《常識 *senso comune*》概念との関連で——」、1981（昭和56）年3月、『イタリア学会誌』第30号、
「『日常生活』と『世界像』の選択的親和性—価値理念と利害関心の連結と媒介をめぐって」、1983（昭和58）年6月、『社会学評論』第133号
3. 「生成期イタリア・ファシズムにおける帰還兵運動の位置（1）」、1984（昭和59）年10月、『神戸外大論叢』第35巻第3号
4. 「生成期イタリア・ファシズムにおける帰還兵運動の位置（2）」、1985（昭和60）年9月、『神戸外大論叢』第36巻第2号
5. 「イタリア・ファシズム下の映像メディア——『支配』の文化・歴史社会学へむけて」、1986（昭和61）年6月、『神戸外大論叢』
6. 「現代男性論」、1987（昭和62）年2月、『法学セミナー臨時増刊』第40号
7. 「あらゆる者の敵—クルツィオ・マラパルテ、その生涯」、1988（昭和63）年7月、『へるめす』臨時増刊号、岩波書店
8. 「政治の中の迷宮——『薔薇の名前』とモロ事件——」、1989（平成元）年5月、第21巻6号、『ユリイカ』、青土社
9. 「満たされざる気分の行方——『戦中派世代』と『戦後転向』——」、1989（平成元）年8月、『検証「昭和の思想」』第2巻、社会評論社
10. 「所有なき愛——チェーザレ・パヴェーゼの挫折——」、1990（平成2）年5月、『へるめす』第25号、岩波書店
11. 「身体論の系譜」1991（平成3）年6月、『ソシオロジ』、第36巻1号
12. 「戦後社会意識の変遷」、1991（平成3）年『検証「昭和の思想」』第4巻、社会評論社
13. 「戦後日本とイタリアにおける政治文化とメディア」、1993（平成5）年3月、『日伊文化研究』第31号
14. 「社会過程における憲法動員——憲法・『世論』・メディア」、1993（平成5）年10月、『法律時報』第65巻11号
15. 「＜男らしさ＞考」矯正協会、『刑政』1994年5月号
16. 「成熟した社会とライフプラン—男性の自立・女性の自立」文部省『文部時報』1994年8月号
17. 「ゆらぐ『男らしさ』」平成6年度大阪大学放送講座テキスト、1994
18. 「男性学への招待」『SEXUAL SCIENCE』1994年12月号
19. 「男性学とは何か」国立婦人教育会館『婦人教育情報』NO.32、1995年9月号
20. 「日本における男性運動の誕生と社会教育における男性学の可能性」『社会教育』1995年12月号
21. 「モンテ・アミアータのキリスト——十九世紀イタリアにおける千年王国運動」日伊協会『日伊文化研究』1997年3月
22. 「男性対象のジェンダーセミナーの現状と課題」国立婦人教育会館『国立婦人教育会館研究紀要』第1号、1997年11月

23. 「幻想の父権より実際の子育て」『アエラムック 家族学がわかる』朝日新聞社、1998年7月
24. 「子どもと情報環境の変化」『環境情報科学』27巻3号、1998
25. 「社会学とジェンダーポリティックス」『関西社会学会のあゆみ』関西社会学会、2000
26. 「イタリア社会学」『実践——空間の社会学』情況出版社、2000
27. 「カルチュラル・スタディーズが問いかけるもの」『理論と方法』15巻、2000
28. 「男たちのイタリア」『日伊文化研究』2001
29. 「日本社会におけるジェンダー政策の現状と課題」日本法社会学会『法社会学』第53号、2001
30. 「ジレンマのなかの男の子たち」『解放教育』2002年1月号、明治図書、2002
31. 「男のディスクールを越えて」『言語』2002年2月号、大修館書店
32. 「男女共同参画社会とセクシュアリティ」『教員研修特集号 男女共同参画社会と学校教育』教育開発研究所、2002
33. 「男女共同参画社会の見取り図—バックラッシュ(逆流)を越えて」都市問題研究会、『都市問題研究』2002年3月号
34. 「父親の次世代育成力をめぐって」『看護教育』医学書院、2002年8月号
35. 「学術の再点検——男性学・男性研究の視点から」日本学術会議、『学術の動向』2003年4月号
36. 「文化の創造と文化研究—研究と実践の間」大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」研究報告書、『岐路に立つ人文科学』2003
37. 「バックラッシュの構図」日本女性学会、『女性学』2004
38. 「社会学テキストの可能性」関西社会学会『フォーラム現代社会学』第2号、2003
39. 「シンポジウム報告 Teaching Sociology——社会学教育の方法をめぐって」関西社会学会編『フォーラム現代社会学』第3号、2004
40. 「戦後日本のポピュラーカルチャーにおける『戦争』と『死』」阪大フォーラム実行委員会編『日本、もうひとつの顔』大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」2005
41. 「人口減少時代の男性／女性の生活スタイル」『発達』第101号、ミネルヴァ書房、2005
42. 「イメージとしての社会学 はじめに」関西社会学会『フォーラム現代社会学』第4号、2005
43. 「戦争マンガとジェンダー」(藤本由香里、増田のぞみとのシンポジウムの報告記録)、日本マンガ学会『マンガ研究』第8号、2005
44. 「メンズリブ運動とその展開」榎本博明編集『現代のエスプリ別冊 セルフ・アイデンティティ——拡散する男性像』至文堂、2007
45. 「67年の叫び／77年の夢 クロニクル・イタリア新左翼運動 1967～77」『別冊 情況 68年のスピノザ』情況出版社、2009
46. 「We,Japanese, gotta have Wa? 日本のスポーツ文化と『集団主義』」日本スポーツ社会学会『スポーツ社会学研究』第17巻2号、2009

47. “Possibility of Visual Sociology, Proceedings of the Kyoto University International Symposium, New Horizon of Academic Visual-Media Practice, Kyoto University, 2010
48. 「近現代日本社会と『和の精神』：日本人は『集团的』なのか」国際行動学会『国際行動学研究』第5巻、2010
49. 「CEDAW（国連女性差別撤廃委員会）最終勧告と『男女共同参画基本計画（第3次）』をめぐって」日本学術会議『学問の動向』vol.15.no.9、2010
50. 「『男』が『少女マンガ』を読むということ」京都精華大学国際マンガ研究センター『国際マンガ研究』vol.1.pp.147-154、2010
51. “Social Movement Media, 1920s-1970s (Japan) in J.H.Downing (ed.) *Encyclopedia of Social Movement Media*, Sage, 2010
52. 「(メタ)複製技術時代の／とDIY文化」京都精華大学全学研究センター『ポピュラーカルチャー研究』Vol.4.No.1. pp.8-20、2010
53. “When a “male” reads Shojo manga”, Comics Worlds & the World of Comics — Towards Scholarship on Global Scale, *Global Manga Studies*, vol.1.2011
54. 「『男女共同参画』政策の過去・現在・未来」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』no.8, pp.5-17、2011
55. 「日本の展望——学術からの提言 2010 男女共同参画の視点から」日本学術会議『学問の動向』2011年6月号、pp.68-71、2011
56. 「大学型高等教育におけるジェンダー平等がもたらすもの」『IDE 現代の高等教育』2011年10月号、pp.42-46、2011
57. 「G・ヴィーコと知の技法」『世界思想』2013年春号、2013
58. 「震災復興・デモクラシー・ジェンダー」日本学術会議『学問の動向』pp.36-8、2013
59. 「男性にとってのジェンダー平等——男性学・男性性研究の視点から」青山学院大学国際交流共同研究センター——『Peace and Culture』第6巻、2014
60. 「アントニオ・グラムシ 人と思想」『哲学研究』第597号、2014